

洋マムの秋冬需要期採花に向けた少量土壌培地耕の栽培方法と直挿し時期			
【要約】 洋マムの少量土壌培地耕の電照栽培、ディスプレイ仕立てでは、夏秋系品種は5月25日から6月10日頃、秋系品種は9月14日頃に直挿しすることで、それぞれ9月上旬と12月中下旬の需要期に70cm以上の切花が得られる。			
農業技術振興センター・花・果樹研究部・花き係		【実施期間】	令和元年度～令和2年度
【部会】 農産	【分野】 戦略的な生産振興	【予算区分】	国庫 【成果分類】 指導

【背景・ねらい】

県内のキク類の生産は盆、彼岸、年末の需要期に向けた小ギクや中輪ギクが中心である。近年、花色と花型が多様で日持ちの良い洋マムが、9月上旬、12月中下旬に需要が増え、有望な品目となっている。

そこで、洋マムの少量土壌培地耕で、これら需要期に市場で求められる70cm以上の切花を採花するための栽培方法を検討する。

【成果の内容・特徴】

- ① 洋マムの少量土壌培地耕では、定植は、配合培養土（赤玉土小粒5：ピートモス2：バーク堆肥2：パーライト1）を10L充填し3列に配置した発泡スチロール製プランター（74.5×24×14cm）に16本/プランターを直挿しして、定植翌日からOKF-1（大塚化学）のEC0.75dS/m養液を300ml/プランター・回で、1日3～5回施用する。電照は直挿し日から22時から翌朝4時までの6時間点灯し、仕立ては側芽と側花蕾をすべて摘み取るディスプレイ仕立てとする。12月中下旬採花作型では、10月中旬より最低16℃の加温をする。
- ② 夏秋系品種では、‘フェリクス’は5月25日から6月10日頃、‘リオナ’と‘セイフローガ’は5月25日頃に直挿しすることで、70cm以上の切花が9月上旬の需要期に得られる。‘リオナ’と‘セイフローガ’は6月10日頃の直挿しでは、開花が9月上旬需要期から大きく遅れる（表1、図1）。
- ③ 秋系品種では、‘セイハウエル’、‘サフィーナ’、‘セイノーマン’は9月14日頃に直挿しすることで70cm以上の切花が12月中下旬の需要期に得られる。‘セイハウエル’‘サフィーナ’‘セイノーマン’は10月7日頃の直挿しでは、切花長が70cm以下となる（表2、図2）。

【成果の活用面・留意点】

- ① 12月中下旬採花作型の場合、1,000 m²（2,000プランター）で粗収益3,700千円（27,200本出荷×136円/本）、変動費1,973千円（種苗費480千円、動力光熱費228千円、出荷経費519千円等）、収益1,728千円と試算できる。

[具体的データ]

表1. 9月上旬採花作型の採花時期(2020年)

夏秋系 品種	直挿 し日	消灯日	採花日	
			10%	80%
フェリクス	5/25	7/10	8/27	9/2
	6/10		8/27	9/2
リオナ	5/25	7/10	8/28	9/4
	6/10		9/2	—
セイフローガ	5/25	7/3	8/28	9/4
	6/10		9/12	—

注1) 16株植え3プランターの調査結果である。

注2) 採花は次作のために9/12で終了した。9/12時点の採花率は'リオナ'は58%、'セイフローガ'は40%。

注3) 電照は昼光色LEDを用い、開始は直挿し日からとし、22時から翌朝4時まで点灯した。

表2. 12月中下旬採花作型の採花時期(2020年)

秋系 品種	直挿 し日	消灯日	採花日	
			10%	80%
セイハウエル	9/14	11/2	12/17	12/22
	10/7		12/21	12/28
サフィーナ	9/14	10/22	12/17	12/22
	10/7		12/21	12/28
セイノーマン	9/14	10/26	12/17	12/23
	10/7		12/21	12/28

注1) 16株植え3プランターの調査結果である。

注2) 電照は昼光色LEDを用い、開始は直挿し日からとし、22時から翌朝4時まで点灯した。

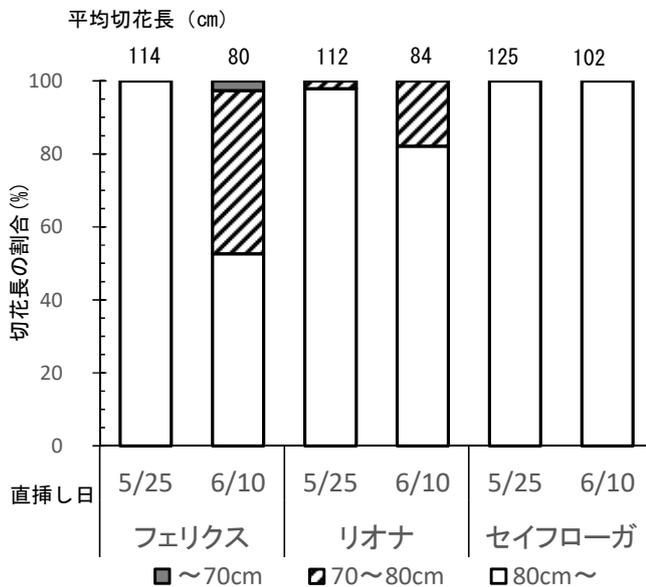


図1. 9月上旬採花作型における切花長の分布 (2020年)

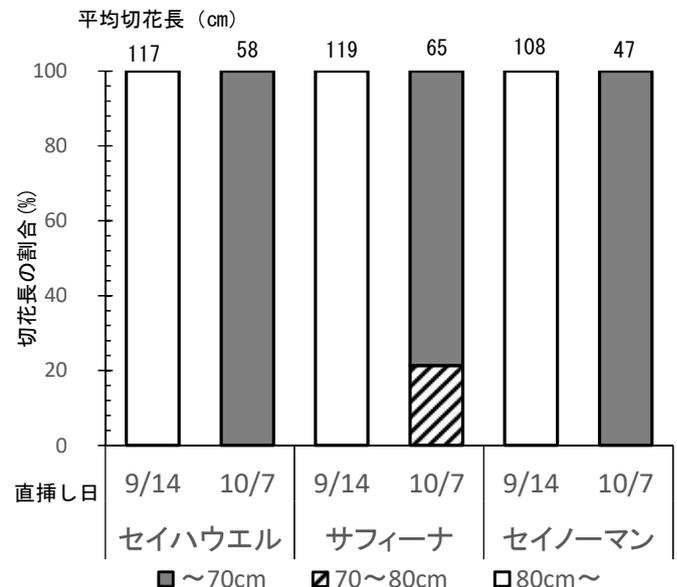


図2. 12月中下旬採花作型における切花長の分布 (2020年)

[その他]

・研究課題名

大課題名：戦略的な農畜水産物の生産振興に関する研究

中課題名：野菜等園芸作物や近江の茶の生産振興

小課題名：洋マムの新規需要に対応した生産技術の実証

・研究担当者名：籠 洋 (R元~R2)、野 雄大 (R元~R2)

・その他特記事項：次世代国産花き産業確立推進事業のなかで、栽培マニュアルとして活用する。